

『人権の花』観賞会

11月11日、大川内小学校で『人権の花』観賞会がありました。

『人権の花』運動とは、年間を通して花の植栽や管理を通じて、児童の思いやりや協力する心を育てようと、唐津・伊万里人権啓発活動地域ネットワーク協議会が、小学生を対象に行っているものです。

今年度『人権の花』運動に取り組んだ大川内小学校の児童たちは、マリーゴールドなど6種類の花をこれまで大切に育ててきました。

この日は、全校児童が体育館に集まり、育てた花を観賞しながら、花を育てるなかで感じたことや人権について考えた学びなどを発表しました。



↑人KEN まもる君と人KEN あゆみちゃんが駆けつけてくれました

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No.274

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23・3186

新年のはじまりに

研修会や講演会に参加すると「人権感覚を磨く」という言葉を耳にします。聞き慣れた言葉なのですが、そもそも『人権感覚』とはどのような感覚なのでしょうか。

私たちの身のまわりには、昔から言われている『変なこと』があります。例えば、葬儀の後に『清めの塩』をふる風習や『結婚式は仏滅の日を避ける』という考え方など、子どもには説明できないことばかりです。生まれた場所や育った場所、住んでいた場所での人の値うち差をつける『部落差別』もその一つです。

日本では「みんなが言っているから」と周囲の意見に左右されがちですが、このことを踏まえると、一見あたりまえに思えることに「ちょっと変じゃないか」と疑問を持つことが『人権感覚』と言えるのかもしれない。

疑問を持つことで「正しいことを知りたい」という向上心が生まれます。正しいことを知ること、やがて子どもに説明できない『変なこと』をなくす行動へとつながります。さらにその行動は『新たな疑問を抱く』という好循環へと結びついていくのです。

私たちが暮らすこの社会には、さまざまな情報が溢れています。例えば、インターネット上には同和地区に対する根拠のない噂や誹謗中傷が書き込まれたサイトが多く存在しています。正しい知識がないと誤った情報を信じてしまい、自分が差別をする立場になってしまうかもしれません。やはり、正しく知ることが大切なのです。

新しい一年が始まりました。今年の目標に「人権感覚を磨く」を加えてみてはいかがでしょうか。あなたの一歩が社会を変える力になります。

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22・1262

しだれ棕

伊万里市の天然記念物シリーズ⑤

伊万里保育園にあるしだれ棕は、昭和48年に伊万里市の天然記念物に指定されました。棕はニレ科の落葉広葉樹で、本州中部から以南の山野に自生しています。春になると新葉とともに淡い緑の花が咲き、その後は球形の緑の実を付けます。秋になると実は紫黒に熟し、食べることもできます。

しだれ棕の大きさは、高さ約24㍎、幹回り4㍎で、枝張りには東西約20㍎、南北約21㍎で、高さ約10㍎付近までは、ほぼ垂直に伸びていて、小枝が簾のように長く垂れさがっています。

同じようにしだれた枝を持つ樹木としては、サクラやウメなどが知られていますが、棕は大変珍しく、学術的に貴重なものです。市内には、南波多町原屋敷大野岳集落内にもしだれ棕の古木があります。現在、しだれ棕がある伊万

里保育園ですが、さかのぼると江戸時代は佐賀藩の年貢米を納めるための蔵が、明治時代には伊万里小学校が、その後は伊万里高等青年学校が、戦後は伊万里中学校があつた場所でした。

しだれ棕は、明治時代から現在までの間、子どもたちが遊ぶ場所に存在していて、これらの場所で幼少期を過ごした人にとっては『思い出の木』として記憶されていることでしょう。しだれ棕を見学したい場合は、伊万里保育園に許可を得てください。



↑伊万里市天然記念物『しだれ棕』